

「子宮内フローラについて教えてください」

子宮内フローラは、子宮内の細菌叢のことを指し、子宮内フローラが良好に保たれることで、妊娠率が向上し、流産率が低下することが知られています。2016年の論文によると、子宮内のラクトバチルス割合が90%以上の人は、90%未満の人より体外受精における着床率・妊娠率・生産率が有意に高く、流産率は低いと示されています。子宮内フローラは、腸内環境と深く関係していると考えられており、一般的にはサプリメントで改善する可能性があります。また、日頃から腸内環境を整える食事をこころがけることで改善が見込めます。検査は自費になります。（高橋）

「大学で保健師をしています、うちは予防的な発信が少ないので、“保健便り”のようなものを定期的にしたと考えています。先生の視点で、大学生の現状、伝えたいことはありますか？」

- 1) 大学生だと HPV ワクチンのキャッチアップ接種に該当する年齢なので、2025年3月までに1回目接種すれば間に合うことを伝えてほしいです。
- 2) 20歳以上で子宮頸がん検診の対象になる方も多いと思うので子宮頸がん検診のこと
- 3) 月経痛、PMSにはピルなどの治療があり保険適応で処方できること（オンラインで買えるピルは自費です）などを伝えてもらえると嬉しいです。

また、まだ恋愛をし始めた方も多いと思うので、デートDVについて、DVとはどんなものが該当するかなどもあるといいなと思います。（高橋）

どの地域の大学で、学部は何か？ 性別の割合は？ 失礼ながら、学生の理解力はどの程度なのか？ 性への関心の度合いは？ 性交経験者がどれくらいいるか？ などを勘案して資料づくりを考えます。一般論でまとめても学生を引きつける資料はできないものです。手っ取り早くでは、「何を知りたいか」を聞いてみた上で、それに答える資料づくりを計画してみても如何？（北村）

「今年の夏、高校生向けに包括的性教育の話をした際『セックスのことがよく分かって良かったです』と喜んでもらったのはよかったのですが、大マジメに『次はセックスのお作法ややり方、もっていき方、タブーなども教えていただけると嬉しいです（高1女子）』とありました。北村先生はこの高校生の素朴な質問にどう答えますか」

いい質問ですね。彼らが知りたいことです。僕だったら、デズモンドモリスの12段階の触れ合いの話にもっていきと思われれます。（図）セックスまでの12段階の過程を通じて真剣に話し合い、妊娠や性感染症を回避する方法などを語ることとなります。「愛情よりも同意」「妊娠を受容できないならば確実な避妊法と必要な経費」の話も忘れずに。（北村）



「避妊法の選択肢として女性ホルモン剤が急増したことに対して、これは保険薬のLEPは含まれず、あくまでも避妊目的のOCの割合ですか？」

調査では「避妊薬であるOCと保険適用のあるLEP」について聞いています。したがって、「OC/LEP」のデータです。（北村）

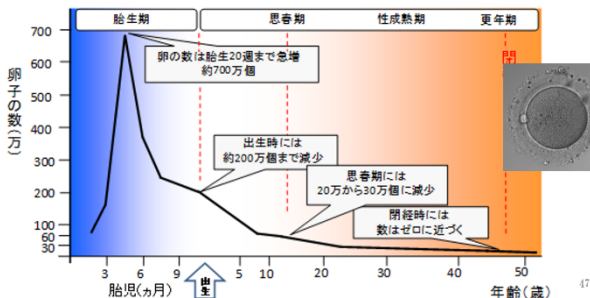
「日本で避妊用のインプラント・パッチが導入されないのはどのような理由なのでしょうか」

新薬、新医療用具などが導入されるには、製薬企業が国民のニーズと企業としての採算を踏まえて、わが国に導入する価値があるかどうかを決めます。その後、国に開発をしたい旨の申請をし、認められると開発がスタートします。わが国で初めての成分の薬であったり、医療用具であれば、基礎的な研究からはじめ、臨床試験まで、相当な時間と経費を要します。インプラントやパッチについても、この過程を経ることが求められており、導入はそんなに簡単なことではありません。（北村）

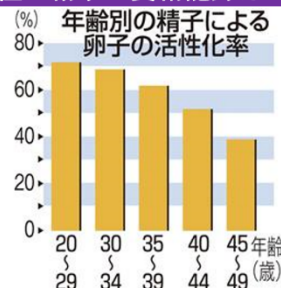
「知らない人は生理があれば、何歳でも妊娠できているところもあります。その辺りの出産年齢についての取り組み等あれば教えてください」

次のようなスライドが役に立つに違いありません。日本家族計画協会からは「将来、ママにパパになりたいあなたへ」という小冊子が販売されています。参考にしてください。（北村）

女性の年齢と卵子の数の変化



男性の精子の受精能力は35歳から低下する



男性の加齢によって受精能力の低下することが実証された。

独協医科大学越谷病院
岡田弘教授

「人工妊娠中絶の同意書について『パートナーのサインが必要』かどうかは、病院により違うという理解でよろしいでしょうか」

本来は、施設によって異なるのはまずいとは思われますが、キリスト教系の病院では中絶をしないこともありますし、実際に施術を行うのは医療機関ですから、「同意書がないと中絶できない」ということがあっても非難できません。（北村）

「未成年の中絶実施について保護者の同意が必要ないのは『いつから』『何の法律で』決められたことなののでしょうか」

わが国には何歳という年齢の縛りはありません。母体保護法第三章には「医師の認定による人工妊娠中絶」という項がありますし、「刑法の一部改正に伴う母体保護法の運用について」という事務連絡では、「同意」について：不倫や夫以外の第三者からの性暴力被害による妊娠の場合、「夫の同意を得ることが困難」であるかを判断し、記録を残しておく。DVの証明を医師が行うことはない（2023年沖縄での高裁判決）。未婚の場合には、相手（性的パートナー）の同意は不要」とされています。保護者の同意が得られないために、中絶機会を逸することなどがあると問題ですよ。（北村）

「保護者に知らせず、中絶実施した後、体の不調が出て相談に来た場合で（保護者の同意が必要ないと説明したのが自分の場合）責任の所在と、親への説明はどのようにすれば良いのでしょうか」

医療は、医療機関（医療者）と患者との契約の上に成立するものです。仮に相手が未成年であっても、契約して中絶が行われた以上、必要に応じて責任をとるのは当然。保護者が納得しなければ、裁判ということだってあります。（北村）

「中高生の医療費について、ピルが無料でもらえるかは保険適用内のもので、中学生以下医療費の対象内のものみという理解でよろしいのでしょうか」

医療費の無料化というのは、保険適用のある治療費についてと理解しています。したがって、ピルではなく LEP 製剤のみ。ミレーナも避妊ではなく月経困難症、過多月経の診断がつくと無料扱いになります。（北村）

「男子のHPVワクチンが無料で受けられるようになったのは、いつから何の制度によるものですか」

男子のHPVワクチンは未だ定期接種の対象になっていません。国ではただ今検討中です。しかし、昨年から独自に無料化している自治体が増えています。

<https://www.yomiuri.co.jp/medical/20231220-OYT1T50127/>（北村）

「メフィーゴパックの年齢下限がどこを調べても調べられません。年齢下限と実施の結果などデータがあれば教えて下さい」

「メフィーゴパック」に限らず、中絶は何歳以上でないと受けられないとの法律はありません。ただし、「メフィーゴパック」を使つての中絶については、使用できる施設には条件があります。（北村）